

# 定期作況報告

(第3号 令和元年7月20日現在)

地方独立行政法人北海道立総合研究機構  
農業研究本部 上川農業試験場

## 1. 気象概況

6月下旬：平年に比べて、平均気温は0.3℃低く、降水量は17.4mm少なく、日照時間は6.2時間少なかった。夏日（最高気温25℃以上、30℃未満）は4日であった。

7月上旬：平年に比べて、平均気温は1.1℃低く、降水量は48.2mm少なく、日照時間は18.3時間多かった。夏日は4日、真夏日（最高気温30℃以上）は1日であった。

7月中旬：平年に比べて、平均気温は並で、降水量は20.8mm少なく、日照時間は29.8時間少なかった。夏日は7日であった。

6月下旬から7月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象表

調査項目	6月下旬			7月上旬			7月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
平均気温(℃)	17.9	18.2	▲ 0.3	19.1	20.2	▲ 1.1	20.5	20.5	0.0	19.2	19.6	▲ 0.4
最高気温(℃)	23.4	23.9	▲ 0.5	25.3	25.3	0.0	26.1	25.9	0.2	24.9	25.0	▲ 0.1
最低気温(℃)	13.3	13.1	0.2	14.2	15.8	▲ 1.6	16.7	16.0	0.7	14.7	15.0	▲ 0.3
降水量(mm)	12.0	29.4	▲ 17.4	8.0	56.2	▲ 48.2	23.5	44.3	▲ 20.8	43.5	129.9	▲ 86.4
降水日数(日)	3.0	3.4	▲ 0.4	2.0	3.9	▲ 1.9	6.0	3.9	2.1	11.0	11.0	0.0
日照時間(hr)	54.7	60.9	▲ 6.2	70.6	52.3	18.3	33.3	63.1	▲ 29.8	158.6	176.3	▲ 17.7

注 1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10カ年の平均値。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

## 2. 作 況

### 1) 水 稲 平年並

5月20日現在：平年並

事由：播種は平年並の4月15日に行った。平年に比べ平均気温はやや高く、日照時間は多く、出芽の揃いは良かった。育苗期間中の天候は4月下旬、5月上旬が平年並の平均気温、日照時間であったが、5月中旬は高温に経過し苗の生育は進んだ。

移植は平年より2日遅い5月20日に行った。移植時の草丈は平年より1.8～3.9cm高く、第1葉鞘高は平年並であった。主稈葉数は平年より0.2～0.3葉多く、茎数は平年並であった。地上部乾物重は平年より0.48～0.54g重かったが、苗の充実度を示す地上部乾物重/草丈は平年並であった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

6月20日現在：平年並

5月下旬の平均気温は平年より高く多照であり、活着は良好で生育も順調であった。6月中旬の平均気温は平年よりやや低く、生育はやや停滞した。6月20日現在、平年より主稈葉数は0.3～0.6葉少なく、草丈は0.9～3.0cm長く、㎡当たり茎数は9～17%少ない。幼穂形成期は平年より4～5日早い。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

7月20日現在：平年並

6月下旬の平均気温および日照時間は平年並で、幼穂形成期が早まった分、止葉期は平年より5～7日早く、止葉葉数は平年より0.8～1.3枚少なかった。7月上旬は日照時間が平年より多いものの平均気温は平年よりやや低く、出穂期は平年より4日早かった。なお、育苗後半の高温の影響により両品種で早期異常出穂が見られた。7月20日現在、茎数はほぼ平年並であり、草丈は平年より3.6cm～6.7cm短い。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

表2 7月20日の水稻の生育

項目	品種名 /年次	ななつぼし			ゆめぴりか			
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	
生育期節	播種期 (月日)	4.15	4.15	0	4.15	4.15	0	
	移植期 (月日)	5.20	5.18	2	5.20	5.18	2	
	幼穂形成期 (月日)	6.19	6.24	▲ 5	6.20	6.24	▲ 4	
	止葉期 (月日)	7.04	7.11	▲ 7	7.05	7.10	▲ 5	
	出穂期 (月日)	7.18	7.22	▲ 4	7.17	7.21	▲ 4	
	成熟期 (月日)		9.11			9.10		
	穂揃日数 (日)		9			9		
	登熟日数 (日)		51			51		
	生育日数 (日)		150			148		
移植時	草丈 (cm)	17.1	13.2	3.9	14.9	13.1	1.8	
	葉数 (枚)	4.3	4.0	0.3	4.4	4.2	0.2	
	茎数 (本)	1.8	1.7	0.1	2.0	2.0	0.0	
	第1葉鞘高(cm)	2.2	2.3	▲ 0.1	2.4	2.3	0.1	
	地上部乾物重(g/100本)	4.84	4.36	0.48	4.86	4.32	0.54	
	地上部乾物重/草丈	0.28	0.33	▲ 0.05	0.33	0.33	0.00	
本田生育	葉数 (枚)	6月20日	7.7	8.3	▲ 0.6	8.3	8.6	▲ 0.3
		7月20日	9.1	10.4	▲ 1.3	10.0	10.8	▲ 0.8
		止葉葉数	9.1	10.4	▲ 1.3	10.0	10.8	▲ 0.8
	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	6月20日	477	578	▲ 101	617	679	▲ 62
		7月20日	760	771	▲ 11	884	900	▲ 16
	草丈 (cm)	6月20日	41.5	38.5	3.0	38.4	37.5	0.9
7月20日		74.1	80.8	▲ 6.7	76.0	79.6	▲ 3.6	
成熟期	稈長 (cm)		69.8			66.3		
	穂長 (cm)		16.5			16.5		
	穂数 (本/m <sup>2</sup> )		702			820		
収量構成要素	一穂粒数 (粒)		51.8			44.5		
	m <sup>2</sup> 当たり粒数 (×千)		36.4			36.4		
	稈実歩合 (%)		95.5			93.6		
	m <sup>2</sup> 当たり稈実粒数 (×千)		34.8			34.0		
	同上比 (%)		100			100		
	登熟歩合 (%)		86.9			83.0		
	籾摺歩合 (%)		80.2			78.3		
	屑米歩合 (%)		2.9			3.9		
	精玄米千粒重 (g)		22.3			22.8		
収量	藁重 (kg/10a)		665			633		
	精籾重 (kg/10a)		864			843		
	精玄米重 (kg/10a)		692			660		
	収量平年比 (%)		100			100		
	検査等級 (等)		1下	-		2上	-	

注 1) 平年値は前7カ年の中、平成30年(最凶年)、平成29年(最豊年)を除く5カ年の平均値。

2) △は平年に比べ「早」、▲は平年に比べ「減」を示す。

3) 苗代耕種概要 育苗様式：成苗ポット苗

施肥量：成分量でm<sup>2</sup>あたり、床土 N 3.0g, P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> 7.2g, K<sub>2</sub>O 3.0g

置床 N 27.0g, P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> 34.0g, K<sub>2</sub>O 18.0g

4) 本田耕種概要 栽植密度：25.3株/m<sup>2</sup> (33.0cm×12.0cm)、3本植

施肥量：成分量で10aあたり、N 8.0kg, P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> 9.7kg, K<sub>2</sub>O 6.9kg, 堆肥1,000kg

5) 精玄米千粒重・精玄米重：網目1.90mm以上、水分15%換算

2) 秋まき小麦 やや不良

9月20日現在：

事由：平年より1日早い、9月14日に播種を行った。

10月20日現在：平年並

事由：出芽期は平年より3日遅かった。出芽後の10月上旬の気温はやや高く推移したため、葉数はやや多く、草丈および莖数は平年並であった。

5月20日現在：平年並

事由：根雪始は平年と同じで、根雪終は平年より4日遅く、積雪期間は平年より3日長い146日となった。雪腐病発病度は平年より低かった。草丈は平年より長い、莖数は平年並であった。

6月20日現在：やや良

事由：5月下旬から6月上旬は高温で推移したため、出穂期は平年より3日早くなった。5月下旬から6月中旬にかけての降水量はかなり少なかった。現時点の草丈は平年よりやや長く、莖数は平年よりやや多い。

7月20日現在：やや不良

事由：出穂以降の6月中旬から7月上旬にかけて、気温および日照時間は平年並であったが、降水量は少なかった。成熟期は平年より5日早かった。稈長は平年よりやや長く、穂長は平年並であるものの、出穂期以降の降水量が少なく有効莖数は減少し、穂数は平年よりやや少なかった。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

表3 7月20日の秋まき小麦の生育

品 種 名		きたほなみ		
項 目 \ 年次		本 年	平 年	比 較
播種期 (月.日)		9.14	9.15	△ 1
出芽期 (月.日)		9.27	9.24	3
出穂期 (月.日)		6.02	6.05	△ 3
成熟期 (月.日)		7.14	7.19	△ 5
越冬茎歩合 (%)		106.4	112.4	▲ 6.0
雪腐病発病度		3.8	20.1	▲ 16.4
葉数(枚)	平30年10月20日	5.1	4.4	0.7
草丈 (cm)	平30年10月20日	17.0	18.0	▲ 1.0
	令元年 5月20日	44.8	36.9	7.9
	令元年 6月20日	88.9	82.9	6.0
茎数 (本/m <sup>2</sup> )	平30年10月20日	767	800	▲ 33
	令元年 5月20日	1244	1212	32
	令元年 6月20日	659	595	64
成熟期	稈長 (cm)	79	74	5
	穂長 (cm)	8.3	8.6	▲ 0.3
	穂数(本/m <sup>2</sup> )	451	543	▲ 92
子実重 (kg/10a)			632	
同上平年比 (%)			100	
容積重 (g/L)			839	
千粒重 (g)			41.9	
蛋白質含有率 (%)			9.0	
検査等級 (等)			1等	-

- 注1) 平年値は、前7か年中、平成27年（最豊年）、  
30年（最凶年、収穫年度）を除く5か年の平均値。  
2) △は平年より早を、▲は平年より減を示す。

3) 春まき小麦 不良

5月20日現在：やや良

事由：播種は平年より1日早い4月18日に行った。出芽期は平年より2日早く、また5月中旬の気温が平年より高く推移したことから生育は良好で、草丈および茎数とも平年を上回っている。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

6月20日現在：やや不良

事由：5月中下旬の高温の影響を受け、出穂期は平年より6日早かった。草丈は平年並であるが、5月下旬以降、圃場が乾燥気味に推移したことから茎数は平年を下回っている。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

7月20日現在：不良

事由：稈長は平年より低く、穂長は平年よりやや短かった。6月下旬から7月上旬の降水量が少なかったことから分けつの無効化が進み、穂数は平年より少なかった。

したがって、目下の作況は「不良」である。

表4 7月20日の春まき小麦の生育

品 種 名		春よ恋		
項 目	年次	本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	4.18	4.19	△ 1
出芽期	(月.日)	5.01	5.03	△ 2
出穂期	(月.日)	6.12	6.18	△ 6
成熟期	(月.日)		7.30	
草丈 (cm)	5月20日	23.1	20.7	2.4
	6月20日	81.7	81.1	0.6
茎数 (本/m <sup>2</sup> )	5月20日	837	674	163
	6月20日	646	747	▲ 101
成 熟 期	稈長 (cm)	80	93	▲ 13
	穂長 (cm)	8.1	8.7	▲ 0.6
	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	393	520	▲ 127
子実重	(kg/10a)		553	
同上	平年比 (%)		100	
容積重	(g/L)		823	
千粒重	(g)		40.7	
蛋白質含有率	(%)		12.2	
検査等級	(等)		2上	-

注1) 平年値は前7か年中、平成24年（最豊年）、平成30年（最凶年）を除く5か年の平均値。

2) △は平年より“早”、▲は平年より“減”を示す。

4) 大豆 やや不良

5月20日現在

事由：播種は、平年と同じ5月20日に行った。

6月20日現在：平年並

事由：播種後の5月下旬は高温で推移した。出芽期は平年より4日早かった。出芽後の6月上中旬は高温で推移したが、降水量はかなり少なかった。主茎長はやや長いが、主茎節数は平年並である。

7月20日現在：やや不良

事由：6月中旬から7月上旬にかけて、気温および日照時間は平年並であったが、降水量は少なかった。開花期は平年より6日早かった。主茎長、主茎節数ならびに分枝数は平年を下回っている。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

表6 7月20日の大豆の生育

品 種 名		ユキホマレ		
項 目	年次	本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	5.20	5.20	0
出芽期	(月.日)	5.30	6.03	△ 4
開花期	(月.日)	7.07	7.13	△ 6
成熟期	(月.日)		9.24	
主茎長 (cm)	6月20日	14.5	11.8	2.7
	7月20日	43.2	59.8	▲ 16.6
	8月20日		66.5	
	9月20日		67.1	
	成熟期		67.8	
主茎 節数 (節)	6月20日	4.2	4.1	0.1
	7月20日	8.7	10.1	▲ 1.4
	8月20日		10.4	
	9月20日		10.6	
	成熟期		10.6	
分枝数 (本/株)	7月20日	5.4	6.9	▲ 1.5
	8月20日		7.6	
	9月20日		6.5	
	成熟期		6.3	
着莢数 (個/株)	8月20日		96	
	9月20日		79	
	成熟期		79	
子実重	(kg/10a)		434	
同上	平年比 (%)		100	
百粒重	(g)		36.3	
屑粒率	(%)		3.6	
検査等級	(等)		2下	-

注1) 平年値は、前7か年中、平成26年（最豊年）、30年（最凶年）を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早を、▲は平年より減を示す。

5) 小豆 やや不良

6月20日現在：平年並

事由：播種は平年並の5月23日に行った。その後高温で推移したため出芽期は平年より3日早かった。主茎長は平年をやや上回っているが、本葉数は平年並である。

したがって、目下の作況は「平年並」である。

7月20日現在：やや不良

事由：本葉数、分枝数はほぼ平年並であるが、6月下旬から7月中旬の降水量が少なかった影響を受け、主茎長は平年を下回っている。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

表6 7月20日の小豆の生育

品 種 名		エリモシヨウズ		
項 目 / 年 次		本年	平年	比較
播種期 (月.日)		5.23	5.23	0
出芽期 (月.日)		6.06	6.09	△ 3
開花期 (月.日)			7.25	
成熟期 (月.日)			9.15	
主茎長 (cm)	6月20日	5.4	4.0	1.4
	7月20日	19.0	26.2	▲ 7.2
	8月20日		68.4	
	成熟期		73	
本葉数 (枚)	6月20日	1.2	1.1	0.1
	7月20日	8.0	8.3	▲ 0.3
	8月20日		12.4	
主茎節数 (節)	成熟期		14.8	
分枝数 (本/株)	7月20日	5.0	4.8	0.2
	8月20日		5.4	
	成熟期		5.5	
着莢数 (個/株)	8月20日		57.1	
	成熟期		61	
子実重 (kg/10a)			380	
同上平年比 (%)			100	
百粒重 (g)			13.5	
屑粒率 (%)			3.8	
検査等級 (等)			3上	-

注1) 平年値は前7か年中、平成25年（最凶年）、平成29年（最豊年）を除く5か年の平均値。

2) △は平年より“早”、▲は平年より“減”を示す。



6) ばれいしょ 不良

5月20日現在：

植付けは、平年より5日遅い5月13日に行った（表7）。

6月20日現在：平年並

事由：植付け後、高温で推移したため萌芽期は平年より1日早かった。茎長はほぼ平年並である。したがって、目下の作況は「平年並」である。

7月20日現在：不良

事由：開花始は平年より1日遅かった。6月下旬から7月中旬の降水量が少なかった影響を受け、茎長は平年を下回っているが、7月17日の降雨により“多”程度の倒伏が認められた。上いもの平均重は平年並であり、でん粉価は平年をやや上回っているが、上いも数が少なく、上いも収量は平年を下回っている。

したがって、目下の作況は「不良」である。

表7 7月20日のばれいしょの生育

品 種 名		男爵薯		
項 目 \ 年次		本 年	平 年	比 較
植付期 (月.日)		5.13	5.08	5
萌芽期 (月.日)		5.27	5.28	△ 1
開花始 (月.日)		6.24	6.23	1
枯凋期 (月.日)			8.29	
茎長 (cm)	6月20日	31.6	34.9	▲ 3.3
	7月20日	42.7	50.5	▲ 7.8
上いも数 (個/株)	7月20日	7.3	9.6	▲ 2.3
	8月20日		10.8	
上いもの 平均重(g)	7月20日	76	77	▲ 1
	8月20日		102	
上いも収量 (kg/10a)	7月20日	2452	3200	▲ 748
	8月20日		4864	
でん粉価 (%)	7月20日	15.0	14.2	0.8
	8月20日		15.0	
収 穫 期	上いも数 (個/株)		10.4	
	上いもの平均重 (g)		104	
	上いも収量 (kg/10a)		4774	
	同上平年比 (%)		100	
	中以上いも収量 (kg/10a)		4264	
	同上平年比 (%)		100	
	規格内いも収量 (kg/10a)		4077	
	同上平年比 (%)		100	
でん粉価 (%)		14.6		

注1) 平年値は前7か年中、平成28年（最豊年）、平成30年（最凶年）を除く5か年の平均値。

2) △は平年より“早”、▲は平年より“減”を示す。